

生涯学習に参加する日本人成人学習者の 韓国語学習参加タイプの検討

朴 榮 三

I はじめに

1. 研究目的

現代社会において、知識と情報の急増、技術の革新などによって、職業社会の変化や個人の余暇生活の変化、高齢化などの社会と教育の変化がもたらされた。このような、教育環境や社会環境の変化は、学習者の価値観や生活様式などの変化とともに、知識社会への変化をうながし、それによって現代社会は、学習の役割や機能を重視することになり、学習が重要な社会的な資源になっている。さらに、生涯にわたって学習しようとする学習者の学習への欲求やニーズは高まり、正規の教育課程だけではなく、各機関教育を通じて多様な教育機会の提供が可能となり、学習者は幅広い教育をうけるようになった。それにより、個人の教育の質は向上し、現代社会は、学習社会（Learning Society）へ進んでいる。

特にグローバル・シティズン（Global Citizen）といわれるように、国際化が進むことによって成人学習者の外国語への学習が増加する傾向である。最近、日本での外国語学習の推進をみると、テレビやラジオでさまざまな外国語の講座が行われており、その中でも、英語・中国語・韓国語などが外国語として人気がある。さらに隣国の言葉である中国語と韓国語への関心は、中国や韓国との地理的・経済的・政治的に親密な関係や地域間・国民間の交流などの活性化によって、その国の言語に関心が持たれるようになり、学習者数も増えている傾向である（朴 2005）。

このような現状とともに日本における成人学習者の韓国語教育に関する研究が盛んになっている。しかし、多くの研究は、韓国語教育に関する教育策についての研究であり、日本での韓国語教育の状況に関する研究に焦点が絞られている。生涯学習において成人学習者の韓国語学習動機に関する研究はほとんど見当たらない。成人学習者の場合は、成人学習者がおかれて

いる学習状況によって学習動機の性向が異なり、成人学習者の学習経験、生活経験、職業経験によって学習参加タイプが異なる。

このような成人学習者の多様な個人属性や社会的関係などによる学習参加動機を研究する必要があると思われる。ところが、現時点までの研究には学習者の年齢や教育水準、社会・経済的地位（status）などによる多様な学習者の個人差とその学習者を取り巻いている社会的関係に関する研究がほとんど見当たらないのである。

それゆえ、本研究では、日本人成人学習者の韓国語学習参加タイプの特性を分析し、その学習者を取り巻いている社会的関係（学習への興味や目的以外の社会環境的影響）の特性を分析することを試みる。

2. 研究内容

本研究では、上述した研究目的のために日本人韓国語学習者を対象とし、その中でも多様な年齢や学習者の階層を測定するため、学習者の個人属性について詳細な指標を立てる。たとえば、個人属性の調査としては性別・年齢・結婚・学歴・平均所得・職業である。

生涯学習行動において成人学習者は、学歴・経済的・社会的地位（status）などによって学習参加タイプの特性はどうなるのか、また学習者の学習行動に影響を与える社会的関係はどうなるのかに焦点を当てて考察する。

序論では、研究の目的と内容および研究方法の説明を行う。理論的な背景では、まず、生涯学習の概念と展開を通じて生涯学習の用語の意味を概観し、まとめる。そして、日本における生涯学習の概念と展開を検討し、生涯学習と外国語学習との関係を検討する。次は、第2言語において学習動機の参加タイプを検討し、それに基づいて生涯学習における参加タイプとの関係や理論を考察し、まとめる。

研究結果では、実証的研究調査のため、研究対象者が質問紙に回答した資料を分析する。日本人成人学習

者の学習参加タイプの分析においては、外国語の学習参加タイプの分析を行い、その結果を生涯学習の参加タイプに適用して検討する。

最後に結論では、理論的な背景を通じた理論に基づいた分析と実証的な研究調査を比較分析し、評価する。そして、これらの資料に基づいて、今後の生涯学習における外国語学習の模索を考察する。

3. 研究調査内容及び方法

1) 研究調査内容

本調査研究の目的は、前述のように日本人成人学習者の韓国語学習における学習参加タイプを分析し、社会的関係の特性（学習への興味や目的以外の社会環境的要因）を分析することである。

- ① 学習参加タイプの特性を分析する。
- ② 学習者の学習行動に影響を与える社会的関係の特性を分析する。
- ③ 学習参加タイプは成人の個人属性（性別・年齢・結婚・学歴・平均所得・職業）による特性分析を行う。
- ④ 社会的関係の特性は成人の個人属性（上掲）による特性分析を行う。

2) 研究・調査方法

アンケートの対象者は、学習者の個人属性の多様性を測定するべく、韓国の梨花女子大学言語教育院に在学している日本人108名とした。アンケートは、梨花女子大学を直接訪問し、2005年2月から3月にかけて実施した。アンケートの対象者に授業の開始時に回答用紙の記入方法を指示し、質問用紙と回答用紙を配布した。回収の仕方は、その授業中に全員が回答するように待機し、全員回収するようにした。尚、回収率は韓国語留学生の中で、日本を国籍としていない留学生を除外した日本人全員である。

質問紙の作成は、さまざまな学習動機理論（言語学習参加タイプ）に関して研究者が実施した項目の中で、筆者の研究に合わせて選び出した項目を用いた。

資料処理としては、統計処理プログラムであるSPSSを使い、数量化Ⅲ類を使った。数量化Ⅲ類とは、数量化Ⅲ類要素が2値データ（0か1や「はい」「いいえ」など）であるときや頻度である場合にそれを数量化し、サンプルやカテゴリーを分類したり、特性を調べたりするものである。

II 理論的な背景

1. 生涯学習の理論的な考察

1) 生涯学習の概念と展開

現代における生涯学習という用語は、1965年12月フランスのパリでユネスコ（国連教育科学文化機関）によって開催された第3回成人教育推進国際委員会（international committee for the advancement of adult education）で、ポール・ラングラン（Paul Lengland）が初めて使った用語が沿源である。ラングランは、ヒトの教育と学習において時間的・空間的な学習機会を統合し、生まれてから死ぬまで、一生涯の教育・学習を行うという生涯教育構想を提唱した。さらに、ユネスコでは「未来の学習」（Learning to Be, 1972年）という報告書で社会の全分野に教育機会を拡大し、社会全体が教育的役割を果たす「学習社会」（Learning Society）を続けて提唱した。（新海英行・牧野篤 2002, Hwang 2004）

つまり、ラングランの生涯教育は既存の教育理念とは違う恒久的、連携的、自発的な学習であり、一生涯にわたる人間の教育的成長や発達の統合的理念である。このような、概念と理念は、各国の社会的、文化的、経済的などの背景によって生涯学習の名前や強調されるところが多少違うようになった。

1970年代半ばからOECD（経済協力開発機構）では、生涯教育・学習に関心が注がれ、“Recurrent Education”を強調し、すべてのヒトのための生涯学習“Lifelong Learning for All”（1996）を宣言した。さらに個人の知的な発達と成長、能力開発、社会的な結束、経済的な成長を目的として生涯学習の認識を拡大した。（Kim 2004）

2) 日本における生涯学習の概念と展開

文部省の中央教育審議会1981年の答申「生涯教育」で、「今日、変化の激しい社会にあって、人々は、自己の充実・啓発や生活の向上のため、適切かつ豊かな学習の機会を求めている。これらの学習は、各人が自発的意思に基づいて行うことを基本とするものであり、必要に応じ、自己に適した手段・方法は、これを自ら選んで、生涯を通じて行うものである。その意味では、これを生涯学習と呼ぶのがふさわしい」と定義している。

さらに、生涯学習を、「国民の一人一人が充実した人生を送ることを目指して生涯にわたって行う学習を助けるために、教育制度全体がその上に打ち立てられ

るべき基本的な理念である」と定義しているのである。(文部省 1981) これは、家庭教育、社会教育、学校教育の横軸的教育と幼児教育、児童期教育、青年教育、成人教育、高齢教育の縦軸的教育を統合する教育の総称を意味する。

日本では、1965年のユネスコの成人教育推進国際委員会で発表されたラングランの基調論文の内容を波多野完治が翻訳し、日本のユネスコ国内委員会刊の『社会教育の新しい動向』の中で紹介された。また、1970年代に入って、経済成長とともに、福祉社会の発展を図り、社会、職場、家庭などでの教育機会を提供する生涯学習体制を構成するようになる。さらに、1990年代には、日本国内の生涯学習の振興のために“生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律”を制定し、実施されている。(日本社会教育学会 2004, Lee 1999)

3) 生涯学習社会へ向けた成人学習者の外国語学習

カナダやアメリカ、フィリピンなどの多文化社会を形成している様々な国では、既に外国語学習が必要な環境に置かれており、グローバル化へ歩みよる国際的態度を持つようになってきている。学習者たちは、グローバル化によっていつでもどこでも外国語を使うようになり、日常生活の中でも外国語に接触する機会が増えるようになってきた。

日本社会の中でも、海外や国内で日本人が日本人だけではなく外国人たちと広く交流することが日常的な現象となっており、国際化によって言語環境が変わってきていることがわかる。さらに、人と人との往来による異文化、異言語と接触すること、在日外国人の増加、外国人の地方拡散は日本全国の草の根の国際交流促進につながり、外国語に接する機会が増える傾向にある。

テレビやラジオなどのマスメディアの発展や普及はさまざまな外国語への関心を深め、その中でも、英語・中国語・韓国語などが外国語として人気を持っている。今日のマスメディアを通じての外国語学習の機会提供は、国際化の時代にあって日本人の外国語能力の向上とともに、生涯学習社会への外国語学習という意味を持っていると思われる。(朴 2005)

2. 生涯学習における学習参加タイプ

1) 言語学習の学習参加タイプ

言語学習において学習参加タイプを検討するためには、学習者の学習動機に関する定義が必要であり、学習動機による分析が求められている。学習動機は一般

的動機と区分されており、教育心理学では1次的な動機と2次的な動機による伝統的な動機分類がある。1次的な動機とは基礎的な動機であり、生理的な動機である。例えば、道徳的・倫理的なことを考えずに本能的な行動をすることで、飢餓、排泄、渇きなどがある。2次的な動機とは、社会的な動機または心理的な動機である。これは、社会生活に適応し、自己自身を保存するための必須的な動機であり、社会の構成員や価値観などに相互関係し、学習や習得などを行うことである。

言語学習における動機とは、1次的な動機より習得や学習などの欲求を持つ2次的動機であると言える。また、動機に伴う要因を「習得や学習における欲求、または意欲」といわれており、心理学では動機づけと名付けている。第2言語学習における学習動機をエリス(ロッド・エリス, 1985)は「人間の実際の行動様式に影響を及ぼす欲求や興味」、「動機づけ」を「学習動機を持たせるように進める要因」と定義している。(朴 2005)

言語学習動機に関する研究はガードナーとランバート(Robert C. Gardner and Wallace E. Lambert, 1959)がよく知られている。彼らは、「統合的動機」と「道具的動機」の二つに分けて分類しており、動機を「第2言語において学習の目的へ向ける学習者の態度である」と定義している。統合的動機は学習言語集団に対する肯定的態度であり、その集団や言語などに興味を持っていることといわれる。道具的動機は、言語習得において機能的理由を持って、良い仕事や試験などの合格、昇進などのための目的を持っていることと定義している。(Crookes & Schmidt 1991) また、デシとラン(Edward L. Deci and Richard M. Ryan, 1985)による「内発的動機」と「外発的動機」がよく知られている。内発的動機とは、学習者の自己の自由意志による学習への興味や関心、学習しようとする欲求である。一方、外発的動機とは、報酬や賞賛など何らかの欲求を満たすための行動であり、それが手段として用いられることである。

しかし、このような学習者の学習そのものへの興味や関心などの内的動機以外にも、学習者を取り巻いている外的要因(社会環境的要因)が学習へ影響を与えている。特に成人の学習活動には、学習者がどのような学習状況におかれているのかによって学習の活動の継続や学習への期待が異なっている。

2) 生涯学習の学習参加タイプ

学習は学習者の何らかの動機によって行われてお

り、その学習行動には学習者の基本的な参加欲求や要求が含まれている。このような学習動機は目標志向の行動を刺激する内的な心理状態である。

しかし、成人の学習参加動機は、彼らがおかれている社会的・文化的・経済的などの学習状況によって非常に異なり、多様な要因に影響されている。そのため、生涯学習において成人学習者の学習参加動機に関する研究が多く行われてきた。その中でも、成人学習者の学習動機と学習能力に関する研究としてホウル(C. O. Houle)の三つの学習参加タイプがよく知られている。

ホウル(C. O. Houle)は、学習動機の学習参加タイプを目標志向型(The Goal-Oriented=目標意識)、活動志向型(The Activity-Oriented)、学習志向型(The Learning-Oriented)と分けて分類している。目標志向型とは学んだことを生活に役立てようとして学習するタイプである。実学型ともいわれている。活動志向型とは、学ぶ内容が目的であるよりはそこで友人を得たり、日常の悩みや煩わしさから開放されたりということに学習参加の意識を見出すタイプである。学習志向型とは、知的探求それ自体を目的として学ぶ人たちで、学ぶことが非常に好きなタイプである。(麻生誠・堀薫夫 2002, Li 2003)

このような、ホウルの三つの成人学習者の学習動機の中で、社会関係形成及び社会参加的な人間関係を重視する活動志向型を除外した目標志向型と学習志向型は言語学習参加タイプでも見られる。目標志向型は学習者が学習の目的を資格や現実的な利益を追求するための手段として用いる意味から道具的動機に近づいていると言える。また、学習志向型は、学習への興味や関心から始まる学習形態であるということによって統合的動機の性向が見られるのである。

Ⅲ 研究結果

数量化Ⅲ類を使ってサンプルやカテゴリーを分類し、特性を調べ、日本人成人学習者の韓国語学習参加タイプを検討した。その検討のために次の二つの質問を用いて調査を行った。

①質問：韓国語を習う目的は何ですか？

(目的が大きい順に番号をつけて3つ以上を答えてください)

- 1 韓国人とコミュニケーションするため
- 2 ビジネスするため
- 3 韓国文化を理解するため
- 4 国際文化を理解するため
- 5 韓国大学への留学したい
- 6 韓国で就職したい
- 7 日本で就職したい
- 8 日本での韓国語の先生になりたい
- 9 そのほか

②質問：日本で韓国語を勉強するようになったきっかけは何ですか？

(動機が大きい順に番号をつけて3つ以上を答えてください)

- 1 新聞、放送などのマスメディアを通じて
- 2 韓国語教育に関する案内／広告を見て
- 3 友達の勧めで
- 4 日本で韓国語のブームがあったので
- 5 会社内で韓国との関係が高まっているので
- 6 韓国の映画・音楽などに興味があるから
- 7 国際理解のため
- 8 日本国内での文化センター活動を通して
- 9 その他

日本人成人学習者の韓国語学習参加タイプの検討の

表1 日本人韓国語学習者の個人属性についての集計結果

個人属性	集 計 結 果
性別	男性：20 (18.5%) 女性：88 (81.5%)
年齢	20歳以下：11 (10.2%)、21-25歳：32 (29.6%)、26-30歳：34 (31.5%)、31-40歳：21 (19.4%)、41-50歳：5 (4.6%)、51歳以上：5 (4.6%)
結婚	既婚：22 (20.4%)、未婚：86 (79.6%)
学歴	高卒：18 (16.7%)、大学在：13 (12%)、大卒：59 (54.6%)、修士在：3 (2.8%)、修卒：6 (5.6%)、博士在：2 (1.9%)、他(短大)：7 (6.5%)
平均所得(月)	10万円未満：6 (5.6%)、10-20万：3 (2.8%)、20-30万：18 (16.7%)、30-40万：16 (14.8%)、40-50万：11 (10.2%)、50万円以上：46 (42.6%)
職業	学生：29 (26.9%)、自営業：5 (4.6%)、会社員：36 (33.3%)、公務員：5 (4.6%)、主婦：4 (3.7%)、専門職：3 (2.8%)、教師：3 (2.8%)、他：22 (20.4%)、無応答：1 (0.9%)

ために、日本人成人学習者の個人背景を調査する必要があり、その集計の結果は次の表1のようになっている。

性別をみると108名の中で女性は88名、男性は20名で、女性の学習者が男性より多くを占めている。年齢は21歳から30歳までが67名で全体108名の中で61.1%をしめている。既婚と未婚は2対8の比率を占めている。学歴は、大学卒業者が5割で一番多くを占めている。平均所得は、月50万円以上の収入を持っている学習者が46名、4割を占めている。職業は学

生と社員が全体108名の中で6割を占めている。

次は日本人成人学習者の韓国語学習参加タイプの分析と学習者の学習行動に影響を与える社会的関係を分析した結果である。

表2は、カテゴリースコアの数値1・2の二つで表されている。数値でマイナスの値はマイナスの値が低くなるほど、その値の強さを表しており、プラスの値はプラスの値が大きくなるほど、その値の強さが表されている。その強さによって図1では学習参加タイプ

表2 学習参加タイプの分析；解釈1と解釈2の結果

解釈1	変数	値	カウント	1	2	解釈2	変数	値	カウント	1	2
①-4	国際文化を理解するため	1.	43	-1.40	0.47	①-6	韓国で就職したい	1.	22	0.52	-1.82
①-3	韓国文化を理解するため	1.	63	-1.34	0.19	①-2	ビジネスするため	1.	30	1.74	-1.27
②-7	国際理解のため	1.	45	-1.19	1.36	②-7	国際理解のため	0.	63	0.85	-0.97
①-2	ビジネスするため	0.	78	-0.67	0.49	①-5	韓国大学への留学したい	0.	98	-0.01	-0.62
①-1	コミュニケーション	1.	89	-0.62	-0.36	①-8	韓国語の先生になりたい	0.	100	-0.27	-0.42
②-6	映画・音楽への興味	1.	43	-0.46	0.18	①-1	コミュニケーション	1.	89	-0.62	-0.36
①-7	日本で就職したい	0.	91	-0.42	-0.24	①-4	国際文化を理解するため	0.	65	0.93	-0.31
①-8	韓国語の先生になりたい	0.	100	-0.27	-0.42	①-3	韓国文化を理解するため	0.	45	1.88	-0.27
①-6	韓国で就職したい	0.	86	-0.13	0.46	①-7	日本で就職したい	0.	91	-0.42	-0.24
①-5	韓国大学への留学したい	0.	98	-0.01	-0.62	②-6	映画・音楽への興味	0.	65	0.30	-0.12
①-5	韓国大学への留学したい	1.	10	0.11	6.09	②-6	映画・音楽への興味	1.	43	-0.46	0.18
②-6	映画・音楽への興味	0.	65	0.30	-0.12	①-3	韓国文化を理解するため	1.	63	-1.34	0.19
①-6	韓国で就職したい	1.	22	0.52	-1.82	①-6	韓国で就職したい	0.	86	-0.13	0.46
②-7	国際理解のため	0.	63	0.85	-0.97	①-4	国際文化を理解するため	1.	43	-1.40	0.47
①-4	国際文化を理解するため	0.	65	0.93	-0.31	①-2	ビジネスするため	0.	78	-0.67	0.49
①-2	ビジネスするため	1.	30	1.74	-1.27	①-7	日本で就職したい	1.	17	2.29	1.32
①-3	韓国文化を理解するため	0.	45	1.88	-0.27	②-7	国際理解のため	1.	45	-1.19	1.36
①-7	日本で就職したい	1.	17	2.29	1.32	①-1	コミュニケーション	0.	19	2.94	1.70
①-1	コミュニケーション	0.	19	2.94	1.70	①-8	韓国語の先生になりたい	1.	8	3.38	5.27
①-8	韓国語の先生になりたい	1.	8	3.38	5.27	①-5	韓国大学への留学したい	1.	10	0.11	6.09

・注：値の場合は「はい」と答えると「1」になり、「いいえ」と答えると「0」になる。
 ・カテゴリースコアは解釈1と2は昇順に並べ替えたものである。

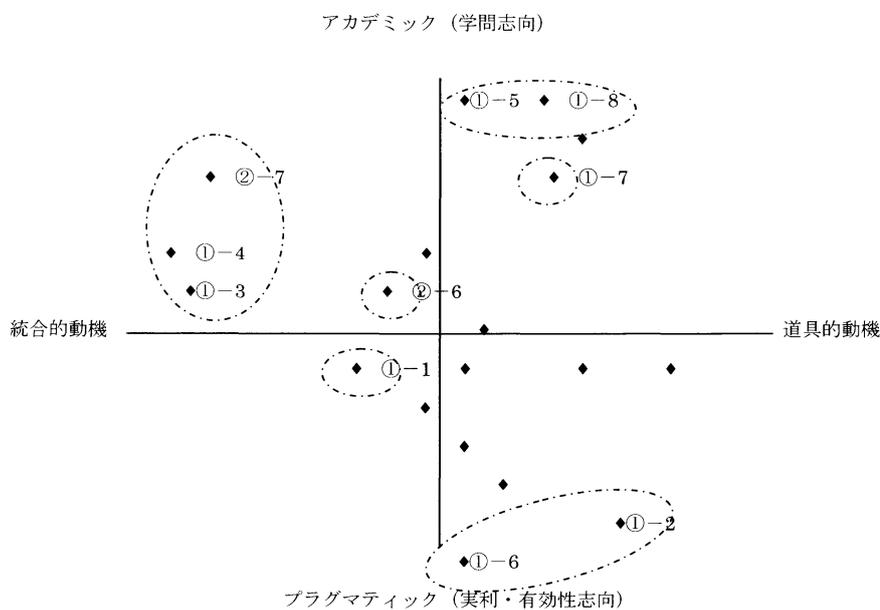


図1 学習参加タイプの分析；解釈1と2のカテゴリースコアの散布図

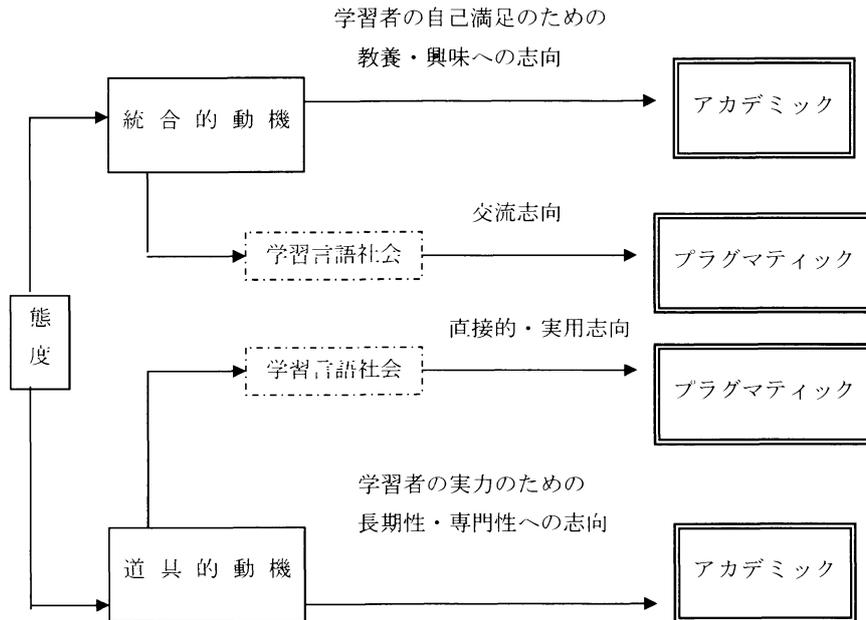


図2 日本人成人学習者の韓国語学習参加のタイプの特徴

表3 学習者の学習行動に影響を与える社会的関係の分析結果

解釈1	変数	値	カウント	1	2	解釈2	変数	値	カウント	1	2
質問-5	韓国との関係	1.	15	-2.81	0.18	質問-3	友達の勧めで	1.	23	0.50	-3.52
質問-4	韓国語ブーム	1.	15	-2.21	3.09	質問-4	韓国語のブーム	0.	93	0.35	-0.49
質問-2	案内/広告を見て	0.	94	-0.51	-0.14	質問-1	新聞, 放送など	0.	87	-0.17	-0.35
質問-8	文化センター活動	0.	96	-0.49	-0.23	質問-8	文化センター活動	0.	96	-0.49	-0.23
質問-1	新聞, 放送など	0.	87	-0.17	-0.35	質問-2	案内/広告を見て	0.	94	-0.51	-0.14
質問-3	友達の勧めで	0.	85	-0.13	0.95	質問-5	韓国との関係	0.	93	0.45	-0.03
質問-4	韓国語ブーム	0.	93	0.35	-0.49	質問-5	韓国との関係	1.	15	-2.81	0.18
質問-5	韓国との関係	0.	93	0.45	-0.03	質問-2	案内/広告を見て	1.	14	3.42	0.94
質問-3	友達の勧めで	1.	23	0.50	-3.52	質問-3	友達の勧めで	0.	85	-0.13	0.95
質問-1	新聞, 放送など	1.	21	0.71	1.48	質問-1	新聞, 放送など	1.	21	0.71	1.48
質問-2	案内/広告を見て	1.	14	3.42	0.94	質問-8	文化センター活動	1.	12	3.99	1.85
質問-8	文化センター活動	1.	12	3.99	1.85	質問-4	韓国語ブームが	1.	15	-2.21	3.09

・注: 値の場合は「はい」と答えると「1」になり, 「いいえ」と答えると「0」になる。
 ・カテゴリースコアは解釈 1と2は昇順に並べ替えたものである。

のモデル項目に位置をつけて表している。表2でカテゴリースコアの値が強く現れているのは, ①-5の項目: 韓国大学へ留学したい (0.11: 6.09), ①-8の項目: 日本で韓国語の先生になりたい (3.38: 5.27), ②-7の項目: 国際理解のため (-1.19: 1.36), ①-4の項目: 国際文化を理解するため (1.40: 0.47), ①-2の項目: ビジネスするため (1.74: -1.27) である。

図2の日本人韓国語学習者の学習目的や手段とする学習志向の中で①-5(目的5: 韓国大学への留学したい)と①-8(目的8: 日本での韓国語の先生になりたい)という数値は, 学問志向の追求に近いことを示しているとともに, 韓国語を単に習得することではなく, 言語学習において長期的で専門的な手段にしようとすることと言える。また, 図2の①-6(目的

6: 韓国で就職したい)と①-2(目的2: ビジネスするため)という数値は, 学習言語社会と直接的な関係があり, 実利・有効性を志向していることが分かる。

図2の他の学習志向で, ②-7(動機7: 国際理解のため)と①-4(目的4: 国際文化を理解するため), ①-3(目的3: 韓国文化を理解するため), ②-6(動機6: 韓国の映画・音楽などに興味があるから)という数値は, 学問志向に近い, 自己満足のための教養と興味を中心とする理解志向の傾向がある。一方, もう一つの実利・有効志向には, ①-1(目的1: 韓国人とコミュニケーションするため)という数値が弱く現れ, 学習言語社会との実用志向に関心が低い傾向が現れている。

表3は, カテゴリースコアの数値1・2の二つで表されている。マイナスの値は低くなるほど, その値の

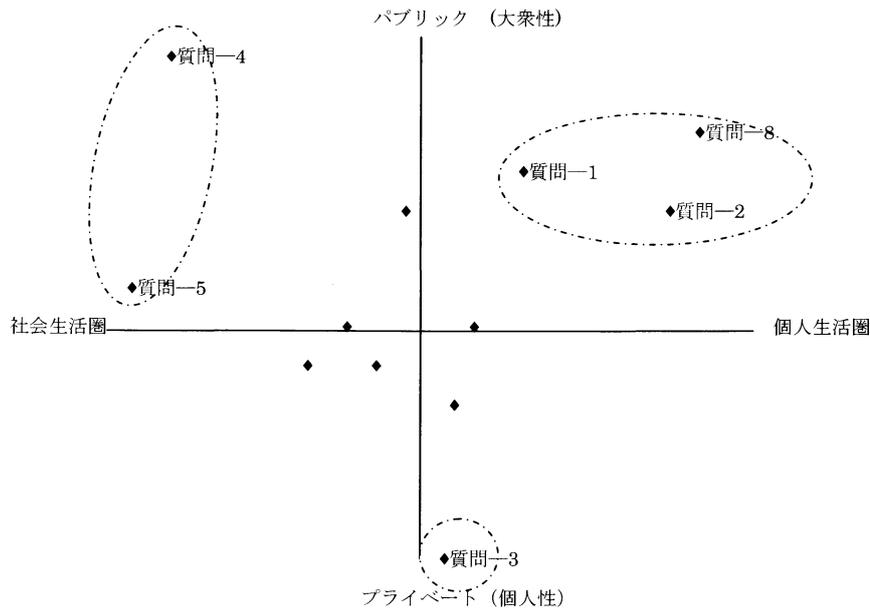


図3 日本人成人学習者の韓国語学習に影響を与える社会的関係の分析結果

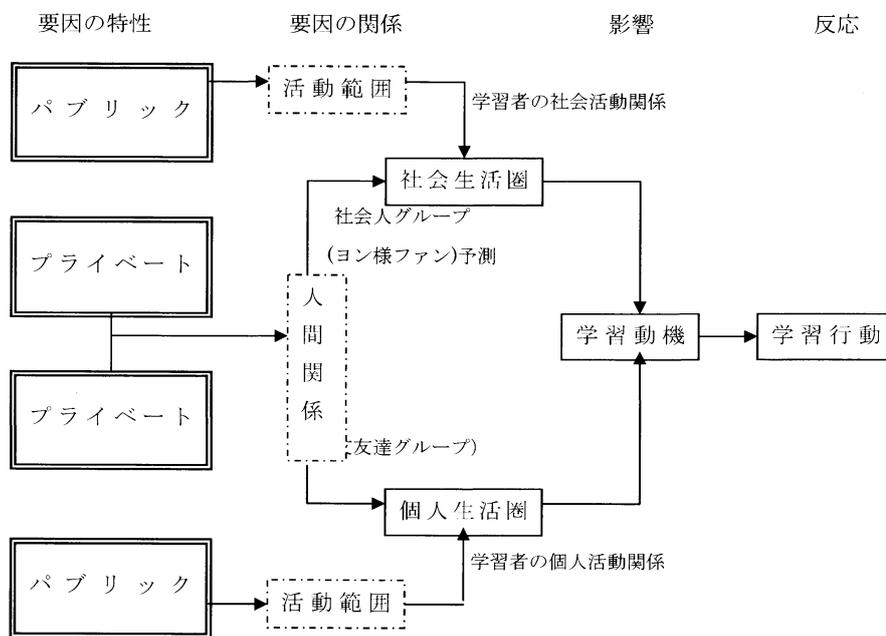


図4 日本人成人学習者の韓国語学習に影響を与える社会的関係の分析結果

強さを表しており、プラスの値は大きくなるほど、その値の強さが表されている。その強さによって図3では学習参加タイプのモデル項目が位置で表わされている。表3と4でカテゴリースコアの値が強く表れているのは、質問-4の項目：日本で韓国語のブームがあったので (-2.21: 3.09) と質問-8の項目：日本国内で文化センター活動を通して (3.99: 1.85), 質問-5の項目：会社内で韓国との関係が高まっているので (-2.81: 0.18), 質問-3の項目：友達の進めで (0.50: -3.52) である。

図4では大きく三つの部分に分かれる。それはパブリックとプライベートの軸を基準として社会生活圏と個人生活圏に大きく二分される。その関係をみると、まず、パブリックと社会生活圏に現れている特性は質問-4の項目（日本で韓国語のブームがあったので）と質問-5の項目（会社内で韓国との関係が高まっているので）である。また、パブリックと個人生活圏に現れている特性は質問-1の項目（新聞、放送などのマスメディア）と質問-2の項目（韓国教育に関する案内・広告を見て）、質問-8の項目（日本国内で文

表4 個人属性による学習参加タイプの検討分析の結果

項目	変数	カウント	1	2	項目	変数	カウント	1	2
性別	男	20	1.04	-0.33	結婚	既婚	22	-0.08	-0.04
	女	88	-0.85	0.46		未婚	86	0.02	0.01
年齢	20歳以下	11	-0.13	0.49	平均所得	10万円未満	6	-0.09	0.08
	21-25歳	32	0.12	-0.03		10-20万円	3	-0.18	0.21
	26-30歳	34	-0.08	-0.08		20-30万円	18	0.20	-0.06
	31-40歳	21	0.05	-0.07		30-40万円	16	0.07	-0.04
	41-50歳	5	0.01	-0.02		40-50万円	11	-0.23	0.03
	51歳以上	5	-0.14	0.08		50万円以上	46	-0.01	-0.01
学歴	高校	18	0.05	-0.07	職業	学生	29	-0.12	0.12
	大学在学	13	-0.07	0.13		自営業	5	0.26	-0.22
	大学卒業	59	0.03	-0.00		会社員	36	0.08	-0.07
	修士在学	3	-0.45	0.18		公務員	5	0.10	-0.21
	修士卒業	6	0.00	-0.06		主婦	4	0.07	-0.18
	博士在学	2	-0.24	-0.07		専門職	3	0.16	-0.14
	他(短大卒)	7	-0.08	-0.01		教師	3	-0.21	-0.16

表5 個人属性による韓国語学習に影響を与える社会的関係の分析結果

項目	変数	カウント	1	2	項目	変数	カウント	1	2
性別	男	20	-0.70	0.04	結婚	既婚	22	0.05	0.03
	女	88	0.01	-0.00		未婚	86	-0.01	-0.00
年齢	20歳以下	11	0.12	0.10	学歴	高校	18	-0.03	-0.02
	21-25歳	32	-0.00	0.09		大学在学	13	0.21	0.08
	26-30歳	34	-0.06	-0.01		大学卒業	59	-0.03	0.03
	31-40歳	21	-0.05	-0.05		修士在学	3	0.02	0.26
	41-50歳	5	0.21	0.37		修士卒業	6	-0.12	-0.25
	51歳以上	5	0.19	0.34					
平均所得 (月)	10万円未満	6	-0.04	0.32	職業	学生	29	0.06	-0.02
	10-20万円	3	0.08	0.41		自営業	5	-0.21	0.08
	20-30万円	18	-0.08	0.03		会社員	36	-0.06	-0.00
	30-40万円	16	0.13	0.01		公務員	5	0.13	-0.02
	40-50万円	11	-0.00	-0.21		主婦	4	0.57	-0.07
	50万円以上	46	-0.02	-0.03		専門職	3	-0.19	-0.21
						教師	3	-0.17	0.25

化センター活動を通して)である。最後にはプライベートと個人生活圏で現れている特性で質問-3の項目(友達の勧めで)である。しかし、図4に現れていないプライベートと社会生活圏の間で、現在ヨソ様ファンのグループを予測することができると思われる。

次の結果は日本人成人学習者の学習参加タイプの検討のために成人学習者の個人属性による学習参加タイプの検討分析である。

個人属性が現れている属性を比べてみる。動機と外的要因の特性の両方に表れている属性を比較してみる。◆印は値が強く現れていることを、◇印は値が現れているがその値が弱いことを示す。

IV 結 論

以上の分析結果を要約すると次のようになる。

まず、日本人成人学習者の韓国語学習参加タイプをみると、大きく四つの特性が現れていた。学習動機で見られる統合的動機と道具的動機の二つが現れており、その中でもアカデミックとプラグマティックの二つに分かれて現れた。この特性は学習者が学習言語社会との関係を重視する観点から始まる学習志向と学習言語社会との関係を重視しない観点から始まる学習志向がみられた。学習言語社会との関係を重視する観点では、学習言語社会への交流的志向や学習言語社会への直接・実用的なビジネス的志向が強く現れていた。一方、学習言語社会との関係を重視しない観点では、学習者の自己満足のための志向が強く現れていた。

次に社会的関係をみると、大衆性と個人性の特性が現れており、これは社会生活圏と個人生活圏に分かれていた。その特性では学習者の人間関係と学習者の活動範囲が学習行動に影響を与えていることがわかった。さらに、人間関係の中でも、社会人グループと友

表6 個人属性による学習参加タイプと社会的関係

個人属性		学習参加タイプ				社会的関係			
		統合的動機		道具的動機		社会生活圏		個人生活圏	
		学問性	実用性	学問性	実用性	大衆性	個人性	大衆性	個人性
性別	男性			◆	◆				
	女性	◆						◇	
年齢	20歳以下	◆							◆
	21～25								
	26～30		◇			◇			
	31～40			◆			◆		
	41～50			◇					◆
	51歳以上	◇							◆
結婚	既婚		◇						◇
	未婚			◆		◇			
学歴	高卒			◇		◇			
	大学在学	◆							◆
	大卒			◇	◇				
	修士在学	◆							◆
	修士卒			◇			◆		
平均所得(月)	10万以下	◆				◆			
	10～20	◆							◆
	20～30			◆	◆				
	30～40			◇				◇	
	40～50	◆							◆
職業	50万以上		◇				◇		
	学生	◆							◆
	自営業			◆	◆				
	会社員			◇	◇				
	公務員			◆					◆
	主婦			◆					◆
	専門職			◆		◆			
	教師		◆			◆			
他	◇								

達グループによって学習行動に影響がみられ、活動範囲の中では、個人生活圏と社会生活圏に分かれている。これは、韓国語学習において学習者の社会活動関係と個人活動関係が強く現れていることを示す。

一方、韓国語学習を手段とし、韓国語を単純に習得することではなく、長期的で専門的な学習手段にしようとする学習志向が強い属性としては20歳以下/未婚であった。さらに、社会的関係では、男性/26～30歳/大学卒業者/教師/自営業の場合、仕事の関係であり、学習者の活動範囲の中で社会生活圏の傾向が強く現れていた。一方、41～50歳/51歳以上/20歳以下/既婚/修士課程/大学課程の場合は、学習者の活動範囲が個人生活圏であった。21～25歳/学生/主

婦の場合は、人間関係を中心とした友達グループの関係であり、個人生活圏の傾向が強く現れていた。31～40歳/会社員の場合も人間関係を中心とした社会人グループの関係であり、個人生活圏の傾向が強く現れていた。

生涯学習における言語学習の学習参加タイプを考えると、学問志向と専門的・実用的志向は、ホウル(C. O. Houle)の学習参加タイプである目標志向型と学習志向型の学習志向が現れていることがわかる。さらに、学習者の学習への社会的関係をも見ると、ホウル(前掲)の活動志向型の中で社会参加的な人間関係や社会グループ関係の学習志向への傾向が現れていることがわかるのである。

今後、生涯学習における成人学習者の学習参加タイプに関する研究のために、具体的な学習志向の項目を立てて、分析する必要が求められる。

参考文献

- 1) 新海英行・牧野 篤「現代世界の生涯学習」大学教育出版, 2002
- 2) 文部省「生涯教育－中央教育審議会の答申」文部省発刊, 1981
- 3) 日本社会教育学会「成人の学習と生涯学習の組織化」東洋館出版, 2004
- 4) 麻 生誠・堀 薫夫「生涯学習と自己実現」放送大学出版, 2002
- 5) 朴 榮三“日本人韓国語学習者の学習動機に関する研究”「修士論文」プール学院大学大学院, 2005
- 6) Hwang, Yoo-Jung “A Study on the Developmental Tasks of Lifelong Education Program for Adult Learners in Public Libraries” 「Master’s thesis」 Dong-A University Busan, Korea, 2004
- 7) Kim, Seong-Gil “A Study on the Lifelong Leisure Education in Korea Through Comparative Analysis on the Lifelong Education Strategies of UNESCO and OECD” 「Yonsei Review of Educational Research」, Vol. 17 No. 1, Korea, 2004, pp. 56-71.
- 8) Lee, Jeong-yun “The Comparative Study of The Systems in Lifelong Education between Korea and Japan” 「Master’s thesis」 Dongguk University, Seoul, Korea, 1999
- 9) Li, Ki-Hwan “A Study on Learner’ Motive of Participation and Satisfying Degree in The Program for Lifelong Education – With lifelong education by government and public offices in the center –”, 「Doctoral dissertation」, Daegu University, Gyeongbuk, Korea, 2003
- 10) Graham Crookes & Richard W. Schmidt “Motivation : Reopening the Research Agenda”, *Language Learning*, Vol. 41, No. 4, 1991, pp. 471-473 で再引用。

他